

# 分析結果報告書〔4〕 1 / 3

## 1.4 水質試料1(亜鉛)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得(複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド25) 3. M L A P 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	( )年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

回数	分析結果(mg/L) 注1)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目	検出下限値以上 注2)	
2回目		
3回目		

注1) 実施要領5の希釈方法に従って共通試料1を水で10倍希釈して調製した分析用試料中の濃度(mg/L)を記入する。

記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。

「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. フレーム原子吸光法 2. 電気加熱原子吸光法 3. ICP発光分光分析法 4. ICP質量分析法 5. その他( )
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他( )

<前処理>

試料量	( )mL
準備操作(前処理)	1. 塩酸酸性で煮沸 2. 硝酸酸性で煮沸 3. 塩酸による分解 4. 硝酸による分解 5. 塩酸と硝酸による分解 6. 硝酸と過塩素酸による分解 7. 硝酸と硫酸による分解 8. その他( ) 9. 前処理を行わない
前処理後の溶液(定容量) 注4)	( )mL

注4) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

<溶媒抽出等>

準備操作(溶媒抽出等)	1. 溶媒抽出 2. イオン交換樹脂カラムによる分離 3. シリカ樹脂を用いた固相抽出 4. その他( ) 5. 実施しない
前処理後の溶液の分取量 注5)	( )mL
(溶媒抽出) 溶媒の種類	1. 酢酸ブチル 2. MIBK 3. キシロ 4. DIBK 5. その他( )
シリカの種類	1. DDTC 2. APDC 3. トリカクアミン 4. APDC + HMA-HMDC 5. その他( )
抽出回数	( )回
溶媒の使用量	( )mL/回
(イオン交換樹脂カラム) 種類	( )
(シリカ樹脂を用いた固相抽出) 樹脂種類1	1. ミノニ酢酸シリカ樹脂 2. その他( )
種類2	1. ディスク 2. カートリッジカラム 3. その他( )
メーカー	( )
型式	( )
試料液のpH調節	pH( )
試料液の流下方法	1. 加圧 2. 吸引 3. その他( )
流速	( )mL/分
溶出種類	1. 硝酸 2. その他( )
濃度	( )mol/L
量	( )mL/回
回数	( )回
最終の定容量	( )mL
最終溶液(試験溶液)の液性	1. 硝酸酸性 2. 塩酸酸性 3. 有機溶媒 4. その他( )

注5) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

# 分析結果報告書〔 4 〕 2 / 3

< 原子吸光法 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 ( ) 注6)
電気加熱法 注入量	( ) μL
注入の方法	1. 自動注入装置 2. 手打ち
原子化の方法	1. 黒鉛炉 2. 耐熱金属炉 3. その他( )
灯ファイバーの添加	1. 添加しない 2. Pdを添加 3. Pd以外の添加( )
原子吸光分析装置	1. 行わない 2. 重水素ランプ 3. 偏光ビーム 4. SR補正(自己反転法)
バックラウト補正	5. その他( )
測定波長	( ) nm

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

< ICP発光分光分析法 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 ( ) 注6)
ICP発光分光分析装置 装置の型式	1. 波長走査(シークンツェル) 2. 波長固定(マルチ) 3. CCD検出器
バックラウト補正	4. CID検出器 5. その他( )
超音波ビームライザーの使用	1. 行う 2. 行わない
測定時間	( ) 秒
測定波長	( ) nm

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

< ICP質量分析法 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 ( ) 注6)
ICP質量分析計 メーカー・型式	1. アジレント ( 1 1. 7500シリーズ 1 2. 7700シリーズ 1 3. 8800シリーズ 1 4. その他( ) )
	2. サーマサイエンティフィック ( 2 1. iCAP Q 2 2. その他( ) )
	3. 島津 ( 3 1. ICPM-8500シリーズ 3 2. その他( ) )
	4. セイコー ( 4 1. SPQ8000シリーズ 4 2. SPQ9000シリーズ 4 3. その他( ) )
	5. パーキンエルマー ( 5 1. NexION 300シリーズ 5 2. その他( ) )
	6. 日立 ( 6 1. SPQ9700シリーズ 6 2. その他( ) )
	7. その他: メーカー( ) 型式( )
スペクトル干渉の低減又は補正	1. 四重極 2. 二重収束 3. その他( )
質量分析計	1. 行わない 2. 行う
コリジョン・リアクションセル	「2. 行う」場合の使用ガスの種類 1. ヘリウム 2. 水素 3. メタン 4. アンモニア 5. キセノン 6. その他( )
	「2. 行う」場合の使用ガスの流量( ) mL / 分
水素化物発生	1. 行わない 2. 行う
補正式による補正	1. 行わない 2. 行う ( その方法の概要: )
その他	補正前の指示値( ) 補正後の指示値( ) 注7)
超音波ビームライザーの使用	1. 行わない 2. 行う( )
測定時の分解能(概数)	1. 使用しない 2. 使用する
積分時間(質量数毎)	( ) 秒
質量数	1. 206 2. 207 3. 208 4. その他( )

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注7) 指示値としては「イオンカウント値」等を記入する。

# 分析結果報告書〔 4 〕 3 / 3

< 検量線の作成等 >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 1. イットリウム(Y) 2. インジウム(In) 3. イッテルビウム(Yb) 4. タリウム(Tl) 5. ビスマス(Bi) 6. ベリリウム(Be) 7. ロジウム(Rh) 8. レニウム(Re) 9. テルル(Te) 10. ガリウム(Ga) 11. ゲルマニウム(Ge) 12. スカンジウム(Sc) 13. コバルト(Co) 14. その他( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	( ) 最小( ) mg/L ~ 最大( ) mg/L 注8) ( )
試料の指示値	1回目( ) 注9) 2回目( ) 3回目( )
空試験の指示値	( ) 注10)
検出下限値	( ) mg/L 注11)

注8) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を示す。

注9) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

なお、指示値は「検量線の最高濃度」、「試料」、「空試験」とも同じもの(例えば吸光度)を記入する。

注10) 標準添加法では記入しない。

注11) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--